

続・UCIを支持する人々の言説の誤り(18)

UCI(いわゆる「郭グループ」)およびFPA(家庭平和協会)を支持する櫻井正実氏は、二〇二一年六月三日、「第四アダムに対する理解」と題する動画を公開しました。彼はその動画で「二〇二一年は第四アダム時代の第一年目」との非原理的な、摂理観、なるものを語り、動画の終わりのほうでは、「韓韓子女史がその真の母の位置を離れ、お父様が聖和された」状況にあるとしたうえで、「今現在この地上で真の父母に立たれている方は顯進様と全淑様である」と断言しています。文顯進様夫妻が「今現在……真の父母に立たれている」との主張は、真のお父様のみ言や「原理」に照らし合わせると、とんでもない非原理的主張にはなりません。前回に引き続き、櫻井正実氏の語る言説が、いかに非原理的であるのかを明らかにします。

なお、これらの問題点を総合的に理解し把握するためには、「真のお父様」の母様宣布文サイト(「http://trueparents.jp/」)の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真のお父様のみ言や「原理講論」の引用は「青い字」で、UCIおよびFPA側の主張は「茶色の字」で区別しています。



十八、真のお父様のみ言と異なる主張をする文顯進様は、第四アダムでも、真の父母でもない・その3
(9)文顯進様は、「祝福権」を持っていない
櫻井正実氏が公開した「第四アダムに対する理解」の動画で、

彼は顯進様が「祝福権」を持っているかのごとく、次のように述べます。

「祝福移譲宣布式でお父様が語られたみ言です。」

「先生が祝福してあげず、これから興進君が祝福するが、興進君がいなくなるなら顯進君が父の代わりに祝福をしてあげられる時代に入るといいます」(祝福移譲宣布式332-289)

このように明確にですね、み言を通して、祝福移譲宣布式で霊界の興進様とそして地上の顯進様に祝福権限を移譲なさいました。お父様のみ言を通して明確に祝福権を移譲された方は顯進様ただお一人です。……祝福権は今、顯進様にあり、全ての祝福家庭は(顯進様から)特別祝福式を受けなければならぬ、そのような立場にあります」

櫻井正実氏は、まるで顯進様が「祝福権」を持っているかの

真のお父様宣布文サイトはこちらから↓



ように語ります。これは、虚偽の主張です。教理研究院は「虚偽に満ちた金鍾奭著『統一教会の分裂』——軌を一にする郭錠煥著『事必帰正』(光言社)で、櫻井正実氏の主張が虚偽であることを指摘しています。以下、長文になります。書籍から抜粋します。

「祝福権限の移譲」に対する歪曲したみ言解釈

——真のお父様のみ言、許諾を得ない「祝福式」は無効……UCI側の人物は、顯進様に「お父様が祝福の権限を相続して下さった」と述べます。UCI側が根拠とする……み言は、二〇〇〇年九月二十四日、

宇宙清平修練苑(現・日丁宇宙天寶修練苑)で行われた「祝福移譲宣布式」のみ言です。……彼らが引用したみ言の部分だけをもってしては、祝福の権限に関して正しく理解するには不十分です。これを正しく理解す

るには、「祝福移譲宣布式」とは何だったのか？ 真のお父様は「祝福の権限」を誰に対して移譲しておられたのかを、み言で直接確認しておかなければなりません。

が……。興進君がいなくなれば、顯進君がお父様の代わりに祝福をしてあげることが出来る時代に入るので(474-476ページ。注：櫻井正実氏は「先生が祝福してあげず……」という部分からマルスム選集を引用し翻訳)

「先生が伝授式祝福をしてあげなければなりません。先生が行った権限、また興進君が行った権限もすべて興進君を通じて……、神様の許しを得て、真の父母の許しを得ることによって」(478ページ)

「主要儀式と宣布式IV」(成和出版社)にそのみ言が収録されています。UCI側を支持する人物は……一部のみ言だけを引用していますので、彼らが引用していない部分を含めて以下、引用します。

「祝福移譲宣布式」とは、「主要儀式と宣布式IV」の序文にあるように、あくまでも「天上の興進様に、真の父母様の祝福権を移譲」された宣布式です。真のお父様は……顯進様に「祝福権を移譲した」とは語っておられず……「今後、興進君が祝福するのですが……。興進君がいなくなれば、顯進君がお父様の代

したがって、「神様の許しを得て、真の父母の許しを得ること」という手続きをしないまま、顯進様が「二〇一五年六月に米国シアトルで祝福結婚式を主催した」(金鍾奭著『統一教会の分裂』66ページ)という祝福は、「弟(顯進様)が行うことのできる権限」自体がなく、誤ったものであり、無効です(82-86ページ。引用終わり)

以上の内容から分かるように、顯進様にはまだ「祝福権」は移譲されていません。「祝福結婚式」は真の父母様の主管のもとで行われるものです。真の父母様の許諾のもと、他の子女様を「真の父母の代身」に立てて行った祝福式はありましたが、顯進様夫妻を「主礼」として行った「祝福結婚式」は一度たりともありません。

「……先生が祝福してあげず、今後、興進君が祝福するのです

るのですが……。興進君がいなくなれば、顯進君がお父様の代

「祝福結婚式」における「天の血統」の伝授について、真のお父様は「天の真の血統をもつ

てこられた**真の父母様**を通して祝福結婚を受けることが、正に真のオリーブの木に接ぎ木される恩賜です。……**血統は、父母が子女だけに与え得る特権中の特権**です。……**真の父母様が許諾された聖酒式を通して血統転換をし、……真の家庭を探し立てられる道が大きく開かれました**」(『平和神経』34〜40ページ)と語っておられます。すなわち、どこまでも真の父母様が、天の血統を人類に伝授してくださる、勝利された唯一の人間始祖の立場です。

櫻井正実氏が述べる「**お父様のみ言を通して明確に祝福権を移譲された方は顯進様ただお一人です。……祝福権は今、顯進様にあり、全ての祝福家庭は(顯進様から)特別祝福式を受けなければならぬ**」との主張は、虚偽の主張です。UCI側が、真の父母様の許諾を受けずに挙行した「**二〇一五年六月に米国シアトルで祝福**

結婚式」および二〇一九年から行っている「**特別祝福式**」なるものは、神様と真の父母様の主管圏から逸脱させる、非原理的儀式にほかなりません。これらの儀式への参加は取り返しのつかない「血統問題」になってしまふものです。私たちはUCI側の行う、非原理的儀式に参加しないよう注意しなければなりません。

なお、櫻井正実氏は動画で「**韓鶴子女史一人では祝福を授けることができません**」と述べ、真のお母様の行っておられる「祝福式」に対し不信感をあおろうとしますが、この批判も誤った主張です。

前述のみ言で、真のお父様が「**血統は、父母が子女だけに与え得る特権中の特権**です。……**真の父母様が許諾された聖酒式を通して血統転換をし、……真の家庭を探し立てられる道が大きく開かれました**」(同39〜40ページ)

であり、かつ「**長子圏**」でもある……特に重要なのは長男の孝進様です。(UCI側は)その方を意図的に排除しています。孝進様の血統が残っていることを無視してはなりません。また、孝進様は一九八四年十一月三日、世界大学連合理究会の世界会長に就任されました。『統一教会の分裂』は、そのことについても触れません。真の父母様は、孝進様を中心に統一教会の二世を一つにする運動を展開されました。特に一九八五年八月十六日に『一勝日』という重要な儀式を行いました。『一勝日』のみ言の重要な部分を抜粋します。

「**父母様の息子・娘たちが長子圏となり、統一教会の二世たちが次子圏となつて、長子圏と次子圏を横的に展開する時代を迎えなくては、地上天国実現出發が不可能だということです**」(『祝福』一九八五年冬季号12

ページ)と語っておられるように、**真の父母様の許諾のもと、真の父母様によつて作られた「聖酒」を用いて血統転換をし、挙行される「祝福式」にこそ、祝福の意義と価値があるのです。**

「**天(てん)一(いち)国(こく)聖(せい)酒(しゅ)**」「**天(てん)一(いち)寶(ほう)聖(せい)酒(しゅ)**」は、真のお父様が聖和される前に、真のお母様と共に地上において作ってくださった「**聖酒**」です。お父様が霊界に行かれた後も、その勝利圏は永遠であり、今も有効です。これはキリスト教において、イエス様が「昇天」されて霊界に行かれた後も、パンとぶどう酒による「**聖餐式**」で、霊的救いが二千年間与え続けられていることと同じです。

「**聖酒式**」と「**祝福式**」は、真のお父様が霊界に行かれた後も、地上の真のお母様と共に、真の父母様の勝利圏によって、おふたりで行われていることを知らなければなりません。櫻井正実氏は「**韓鶴子女史一人では祝福を授けることができません**」

ページ)……「**私は孝進に尋ねるが、これからはお父さんの代わりに、この統一家のいかなる食口にも負けないように、中心的長子の責任を果たしていかなければなりません**」(同、37ページ)

「**一勝日**」は、真のご家庭の長男・孝進様を通して、真の父母様の息子、娘たちが「**長子圏**」であり、統一教会の二世たちが「**次子圏**」として設定され、「**天国実現の出發**」となつていく歴史的時間でした。真のお父様は、孝進様に対し「**中心的長子の責任**」を果たすよう願われたのです。

以上のみ言を整理すると、「**長子**」とは「**先生の息子、娘**」であり、また「**父母様の息子・娘たちが長子圏**」なのです。そして孝進様に対し「**中心的長子**」の責任を果たすように願っておられたのです。……UCI側の言動は、真の父母様(のみ言)に対する冒瀆行為であり、誤つ

せん」と批判しますが、「**韓鶴子女史一人で**」聖酒式や祝福式を行っているという批判自体、誤った主張にほかなりません。

(10) 文顯進様は、「**真の子女様を代表する長子**」ではない。最近では聞かれなくなりましたが、かつてUCI側は文顯進様を「**摂理的長子**」と強調していた時期がありました。言うまでもなく、真のお父様がみ言でもなく、真のお父様がみ言で「**摂理的長子**」という言葉を使われ、使用されたことはなく、彼らはみ言にないことを主張していました。

今回、櫻井正実氏は動画で、**顯進様に対し「真の子女様を代表する長子、第四アダム」と語っています。「(顯進様が)真の子女様を代表する長子」**であると主張することも、真のお父様のみ言に根拠がありません。教理研究院は『虚偽に満ちた金鍾奭著「統一教会の分裂」』で、UCI側が主張する「**長子**

た摂理観によるもの、み言に対する無知によるものと言わざるをえません」(116〜120ページ。引用終わり)

かつてUCI側は、顯進様に対し「**摂理的長子**」という言葉を使い、真のお父様は「**中心的長子**」という言葉を使用しておられます。お父様のみ言に基づけば「**長子**」とは「**先生の息子、娘**」のことであり、さらに「**父母様の息子・娘たちが長子圏**」となり、祝福家庭の子女たちは「**次子圏**」です。そして、孝進様に対して「**中心的長子**」の責任を果たすよう願っておられました。

ところで、正式な「**天(てん)一(いち)国(こく)**」の名称は「**天(てん)宙(ちゅう)平(へい)和(わ)統(とう)一(いち)国(こく)**」です。すなわち「**天(てん)一(いち)国(こく)**」とは、地上界のみならず、霊界をも含めた世界を言います。二〇〇八年三月十七日、長男の孝進様が聖和され、二日後に

の問題に関する誤りを指摘しています。以下、書籍から抜粋します。

「**長子**」に関する真のお父様のみ言を引用します。**「尹博士、統一家において長子は誰ですか。(孝進様です。孝進より先生の息子、娘です。十二支派(の全て)が長子なのです」**(マルスム選集133〜244)

一九九八年七月十九日、真の子女様の三男・顯進様が世界平和統一家庭連合の世界副会長に就任した出来事を、『統一教会の分裂』では「**長子相続**」(176ページ)と位置づけます。真のお父様は、「**長子**」とは「**先生の息子、娘**」であると語っておられます。み言に基づけば、全ての子女様が「**長子**」なのです。……

長男の文孝進様を、無視する誤り——**全ての子女様は「長子」**

「世界聖和式」が執り行われ
ました。真のお父様は聖和式後、
「父母様の代身者の家庭の主人
として、権威を誇ることのでき
る権威をこの時間に（孝進様に）
付与するので……」（マルスム
選集587―323）と祝祷さ
れた後、「この人（孝進様）が
長子の福を受けて（霊界に）行
くことを誇りに思っ、お祈り
をたくさんしてあげて……」（同
587―324）と語られまし
た。

真のお父様は、孝進様が地上
界と霊界を含めた「天一国」の
「中心的長子」であることを明
確にしておられます。櫻井正実
氏が顯進様に対し「真の子女様
を代表する長子」と主張するの
はみ言に根拠がなく、非原理
的主張にほかなりません。

(11) 存在しないみ言を、存在す
るかのように語るUCI・FP
Aの虚偽
一九九〇年三月二十七日、真

者」は顯進様なので、「文顯進
と一つになって真の父母に従え
」と語られたものではありません。
……

「文顯進を中心に一つになれ」
のみ言は存在しない

『統一教会の分裂』は、二〇
〇八年十二月二十四日、真のお
父様が亨進様に『文顯進を中
心に一つになれ』と指示（1
39ページ）されたと述べてい
ますが、そこにはみ言の典拠が
表記されていません。二〇〇八
年十二月二十四日に語られたみ
言は、マルスム選集604巻1
98―213ページに『新しい
聖殿と祖国光復』という題目で
収録されていますが、お父様が
「文顯進を中心に一つになれ」
と亨進様に対して指示されたみ
言はありません。

また、『統一教会の分裂』は
このクリスマスイブの晩餐会の
とき、真のお父様が「文顯進中
心の兄弟間の秩序と摂理の進路
を明確にした」（135ページ）

のお父様は、ご自身は「第一教
主」、真のお母様は「第二教主」
であると宣布され、その後も変
わらず宣布してこられました。
そしてご自身の聖和後は、お母
様が責任を持つことを明確にさ
れ、お母様を中心に一つになる
ことを指導しておられます。こ
のご指導は一貫して変わらず、
二〇〇五年九月に「天宙平和連
合（UPF）」が創設された後
も、二〇〇六年六月に「天正宮
博物館」が建立された後も、一
貫しておられます。

そして、真のお父様は二〇一
〇年に「最終一体」を宣言され、
聖和される年の二〇一二年七
月、最後の創設となった摂理機
関「アベル女性UN」では、「勝
利した世界的な女性代表である
真のお母様に侍り」なさい、と
語られるなど、真のお母様を証
しする講演をしておられます。

ところが、UCI側が広める
金鍾奭著『統一教会の分裂』は、
真のお父様が二〇〇六年十月六

と述べています。金鍾奭氏は、
その根拠として『統一教会の分
裂』135ページの脚注349
番で、『週刊文春』48ページ
の記事を（次のように）引用し
ています。

「349）日本のジャーナリ
スト石田謙一郎は二〇〇八年十
二月二十四日、文顯進を中心と
した組織改編を示唆する創始者
の言及……を以下のように伝え
ている。……「これからすべて
の摂理は、長兄である顯進氏が
中心になっていく」

金鍾奭氏は、前記の引用が、
『週刊文春』の記者「石田謙一
郎」の記事からとし、それを脚
注に引用しますが、石田という
名も虚偽表記で、正しくは石井
謙一郎氏です。……

石井謙一郎氏は、有田芳生氏
らと共に統一教会に対する反対
活動をしてきたジャーナリスト
です。彼らは一九九三年四月に
起こった山崎浩子さん『脱会』
に関連して注目されたジャーナ

日に「文顯進と一つになって真
の父母に従えと言及」したと述
べ（日本語訳108ページ）、
さらに、二〇〇八年十二月二十
四日に「文顯進を中心に一つ
になれ」と指示」されたなどと
述べています。これは、虚偽の
主張です。教理研究院は『虚
偽に満ちた金鍾奭著「統一教会
の分裂」』でその虚偽を暴いて
います。以下、長文になります
が、書籍から抜粋します。

「存在しないみ言を騙るUCI
の虚偽」
「文顯進と一つになって真の
父母に従え」のみ言は存在しな
い……

金鍾奭氏は、二〇〇六年十月
六日、真のお父様が「文顯進と
一つになって真の父母に従え」
と言及したとするみ言を次のよ
うに引用します。

「地上ではこれから顯進を中
心として一つにならないならば
ならないのです。それゆえに皆さ

リストで、山崎さんの強制的な
脱会説得事件の一翼を担った立
場において報道をした人物で
す（参考、太田朝久・三笠義雄
共著『有田芳生の偏向報道まっ
しぐら』賢仁舎刊）。その反対
派の人物を、『統一教会の分裂』
は「石田」と名前を変えて掲載
しており、これは反対派ジャー
ナリストだと分らないように
するための隠蔽工作と言える行
為です。……

引用元である二〇一一年九月
八日号『週刊文春』の記事を読
むと、この情報源は「韓国の統
一教会関係者」（48ページ）だ
と書かれており、おそらくUCI
の関係者と思われる。これ
こそ、虚偽の情報」を提供した
ことに対する隠蔽工作であると
考えられます。

結局、二〇〇八年十二月二十
四日に真のお父様が亨進様に対
し「文顯進を中心に一つになれ」
（139ページ）と語られた根
拠は、反対派ジャーナリストの

んは文顯進家庭を中心として一
つになり、父母様に従って入っ
ていくのです。そうしてこそ全
てが終わるのです」（『統一教会
の分裂』108ページ）……
これは二〇〇〇年十月六日に
語られたみ言で……それを、彼
は二〇〇六年十月六日に語られ
たみ言であると、六年も偽って
います。お父様が二〇〇六年に
「文顯進と一つになって真の父
母に従え」と言及されたとする
み言の引用は、虚偽にほかなり
ません。

ちなみに、二〇〇〇年十月六
日に語られたこのみ言は、顯進
様が「二〇〇〇年三月三十一日
に統一教会が主導する大学生組
織カープ（CARP）の世界会長」
（同、68ページ）に就任された
年のもので、その意味は真の父
母様が立てた責任者（カープ世
界会長の文顯進様）に従い、真
の父母様のみ旨を果たすよう指
導者や教会員たちを教育したも
のです。「将来の統一教会後継

石井謙一郎氏の記事であり、お
父様のみ言ではなく、み言に根
拠もありません。（注、ちなみ
にこの石井謙一郎氏の批判記事
には有田芳生氏も寄稿しており、
有田氏は「日本の幹部の中には、
三男の顯進氏についていきたい
という動きがあるんです。（顯
進氏は）もともと人望が高かつ
た」と述べ、文顯進氏を持ち上
げています。）……

マルスム選集を見ると、お父
様は天福宮建設基金を下賜され
ながら、次のように語っておら
れます。
「兄を中心として（天福宮建
設基金を）与えるのです。顯進
が真ん中に立ちなさい。國進は
左側に立ちなさい。亨進はあな
たが全体（新しい聖殿）に責任
を持つので右側に立ちなさい」

（マルスム選集604―200
―201。2008・12・24）
このように、真のお父様は亨
進様に対し、新しい聖殿建設に
ついて「あなたが全体に責任を

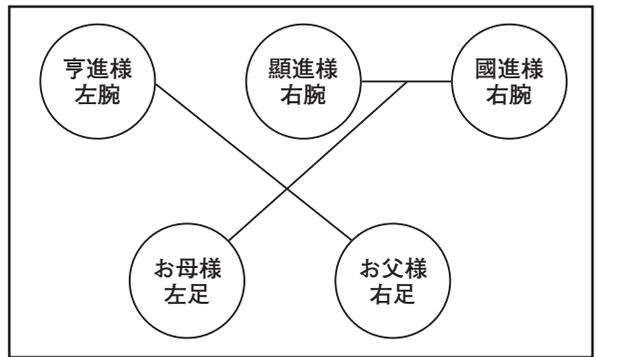
持つ」と語られ……『新しい聖殿と祖国光復』に対する摂理の進路と兄弟間の秩序については、次のように語っておられます。

「神様を中心に、その次にアダムを中心に亨進です。亨進は右側に立ちましたが、先生と対称になっており、あなたたち（顯進・國進）はお母様を中心に対称になっていますが、歩く時はどうでしょうか？ 左足は右腕に合わせ、右足は左腕に合わせるのです。このように歩くのと同じように生かされる新しい目的地を探すためには、このように入れ替わらなければならぬのです。新しい聖殿と新しい祖国光復です。祖国光復を成すにおいて聖殿を中心に成すのです」（マルスム選集604-202）

真のお父様は、亨進様はお父様と対称に、顯進様と國進様はお母様を中心に対称になっていると語っておられます。【写真と図参照】……（み言を確認せ



ずに）二〇〇八年十二月二十四日の晩餐会の写真だけを見ると、まるで「文顯進中心の兄弟間の秩序と摂理の進路を明確にした」ものと勘違いしてしまっています。しかし、お父様は、「亨進はあなたが全体に責任を持つ」と語っておられ、さらには「亨進は右側に立ちましたが、先生と対称になっており、あなたたち（顯進・國進）はお母様を中心に対称になっています」と語っておられます。『真の母』を中



心として子女（カイン・アベル）である顯進様と國進様が、真のお母様に絶対服従して、一体化していくことが、神様の摂理を進めていくための最大のポイントであることが分かります。結局、真のお父様の願いは顯進様と國進様が、真のお母様の言葉に絶対服従することであつたにもかかわらず、そのようにできなかったところに、今日に

おける子女様の問題の原因があつたと言わざるをえません。……
二〇一〇年七月十六日、真のお父様は故・神山威氏に対して、『彼ら（UCIいわゆる「郭グループ」の人々）のことが、一つ聞いて、二つ聞いて、三つ聞いたら、みんなうそばっかり』であると語っておられますが、金鍾奭著『統一教会の分裂』は、うそで塗り固められた虚偽のストーリー「なのです」（366〜377ページ。引用終わり）

真のお父様の願いは、ご自身の聖和後、真のお母様を中心に統一家が一つになることでした。私たちは、顯進様に使命があつたかのごとく述べるUCIおよびFPA側の「虚偽の言説」に惑わされてはなりません。お父様が二〇〇六年に「文顯進と一つになって真の父母に従え」と語つたとするみ言や、二〇〇八年十二月二十四日の「文顯進を

中心に一つになれ」というみ言は存在しないのです。存在しないみ言を、まるで存在するかのようUCI側は主張してきたのです。

(12) お母様が文顯進様を統一家から追放したとの「虚偽」

以上述べてきたように、真のお父様の聖和後におけるお父様の願いは明確であり、それは真のお母様が摂理と組織全体に責任を持たれ、お母様を中心に全食口が一つになっていくことでした。

したがって、真の子女様たちが真のお父様の願いに従い、真のお母様をお支えしていけば何の問題もありませんでした。お母様が、真の子女様たちを追い出す必要など全くないのです。ところが、UCI側を支持する金鍾奭著『統一教会の分裂』はみ言を改竄し、追い出されたという「虚偽のストーリー」を作り上げています。非原理集団と

して徒党を組んだ子女様には、自分こそが摂理の中心に立ちたいという利己に基づく「欲心」があつたことは明らかです。

二〇〇八年四月十八日、七男の亨進様が家庭連合の世界会長に就任された頃から、三男の顯進様は真のお父様のご意向に対して強く反発するようになり、二〇〇九年一月十五日、真のお母様が挙行された「万王の王神様解放権戴冠式」の式典に参加しませんでした。

真のお父様は同年三月八日、いわゆる「束草事件」のとき、そのことを指摘され、顯進様を厳しく指導されました。そして、人事措置とともに郭錠煥氏に「顯進は勉強しなければなりません。郭錠煥が『平和神経』を教えてあげなさい」（マルスム選集609-131）と指示されました。それは、顯進様が『平和神経』を学び、真の父母様について正しく理解することを願われたからです。

ところが、その日以降、顯進様は真のお父様と、たもとを分かつようになり、やがて反旗を翻し、真の父母様と別行動を取るようにになりました。さらに、郭錠煥氏も同年十二月六日の訓読会を最後に、真の父母様のもとを離れてしまったため、顯進様は真の父母様およびみ言を正しく学ぶことができなくなつてしまったのです。

UCI側は、真のお母様が真のお父様のご意向に反して陰謀を企て、三男の顯進様を統一家から追い出したかのように、虚偽のストーリーの「真のお母様陰謀論」を主張してきました。

顯進様が主張するアイデンティティーは、真のお父様が説かれるみ言および『平和神経』の思想と、ことごとく異なっています。それにもかかわらず、金鍾奭著『統一教会の分裂』はその結論の部分で、真のお母様の聖和後、お父様のアイデンティティーを継承している顯進

様によって統一教会人を再活性化できるなどという、非現実的主張をしています。

現在の状況は、郭錠煥氏が、誤つた真の父母観や原理観を持つ顯進様を正しく教育できず、その責任を果たせなかつたため起こつたことです。

真のお父様が「顯進は勉強しなければなりません」と語っておられるように、真の子女様が真の父母様のみ言を正しく理解することが何よりも重要です。

顯進様、郭錠煥氏を中心とするUCIおよびFPAの全てのメンバー、また亨進様を中心とするサンクチュアリ教会のメンバーなど、非原理的な活動をすすめる人々が、自らが「原理」の教えと真の父母様に出会い、救いの感動の中にこの道を歩み始めたそのときの心情に立ち返り、一日も早く、真の父母様のもとに帰ってきて、一つに和合していくことを切に願ってやみませ